

女子短期大学生の心理的発達に関する縦断研究 (29)

— 学校満足度と時間的展望の関連 —

○ 五十嵐素子 (北海学園大学)
杉本英晴 (中部大学)

森山雅子 (愛知江南短期大学)
谷 伊織 (東海学園大学)

問題と目的

大学生の学校生活の適応に関する要因について検討し、それらを学業面やメンタルヘルス、就職活動等の支援に生かすことは今日の高等教育機関において多く行われている。特に近年はキャリア形成の側面において学生支援が多く行われているため、その要因や介入方法など様々な研究が行われている。そこで、本研究では、学生の心理的発達やキャリア形成、大学への適応のあり方を明らかにし、学生支援の方法について検討することを目的とした包括的な学生の心理的発達に関する 2 年間にわたる縦断調査を行った。

本報告ではその一環として、大学生生活の満足度とキャリア意識に関わる時間的展望との関連を検討した結果を報告する。大学生生活における学校に対する満足度は適応的な学生生活を送る上での一つの要因になると考えられるが、学校生活における満足度がキャリア形成とどのように関連するかを扱った研究は多くない。そこで、これらについて、縦断的に調査を行ったうえで関連性を検討する。学生の大学生生活への満足度が時間的展望に対しては相互に影響を与え合っていると考えられるだろう。ここでは当該校の学生生活における 6 時点のデータを用いて検討する。

方法

対象者: 東海地区における A 女子短期大学において、研究の趣旨に同意した大学生の 198 名を対象として 2 年間にわたる 3 か月ごと、7 回の質問紙による縦断調査を行った。

調査項目: ①時間的展望体験尺度(白井, 1994): 「目標指向性」「希望」「現在の充実感」「過去受容」の下位尺度, 計 18 項目, 5 件法。②学校満足度: 単

一項目にて、0~100 までの得点をつけることによって評価した。なお、当該校においては倫理委員会が設置されていないため、学長による研究計画および倫理指針の承認を受けた。

結果

7 時点における時間的展望体験尺度の各尺度得点を算出したうえで、各尺度間の相関係数を算出した。その結果、学校満足度と時間的展望の「目標指向」「希望」「過去受容」の間の相関係数はどの時点においてもほとんどが無相関であった。一方、2 年次の時間的展望はほぼすべての時点における学校満足度との間に有意な正の相関が認められた(Table 1)。

考察

学校満足度は時間的展望体験における現在との間に関係があり、特に学生生活の後半における現在の時間的展望は全期間における学校の満足度と関連していた。すなわち、大学生生活において満足度が高い者は学生生活を総括する時期において、現在の時間的展望が高くなることが示唆された

Table 1 各時点における時間的展望(現在)と学校満足度の間の相関係数

	時間的展望 現在						
	time1	time2	time3	time4	time5	time6	time7
学校満足度							
time1	.126	.144	.157	.098	.172	.243 **	.243 **
time2	.162	.174 *	.071	.047	.187 *	.268 **	.260 **
time3	.125	.095	.027	.029	.232 *	.324 **	.309 **
time4	.084	.054	.124	-.031	.184	.233 *	.243 *
time5	.105	.073	.018	-.069	.317 **	.287 **	.203 *
time6	.075	.090	.028	-.034	.242 *	.223 **	.197 *
time7	-.011	-.043	.040	.005	.302 **	.202 *	.258 **

* $p < .05$, ** $p < .01$